

環境まちづくりをめざす

あじえんた

夏
2002

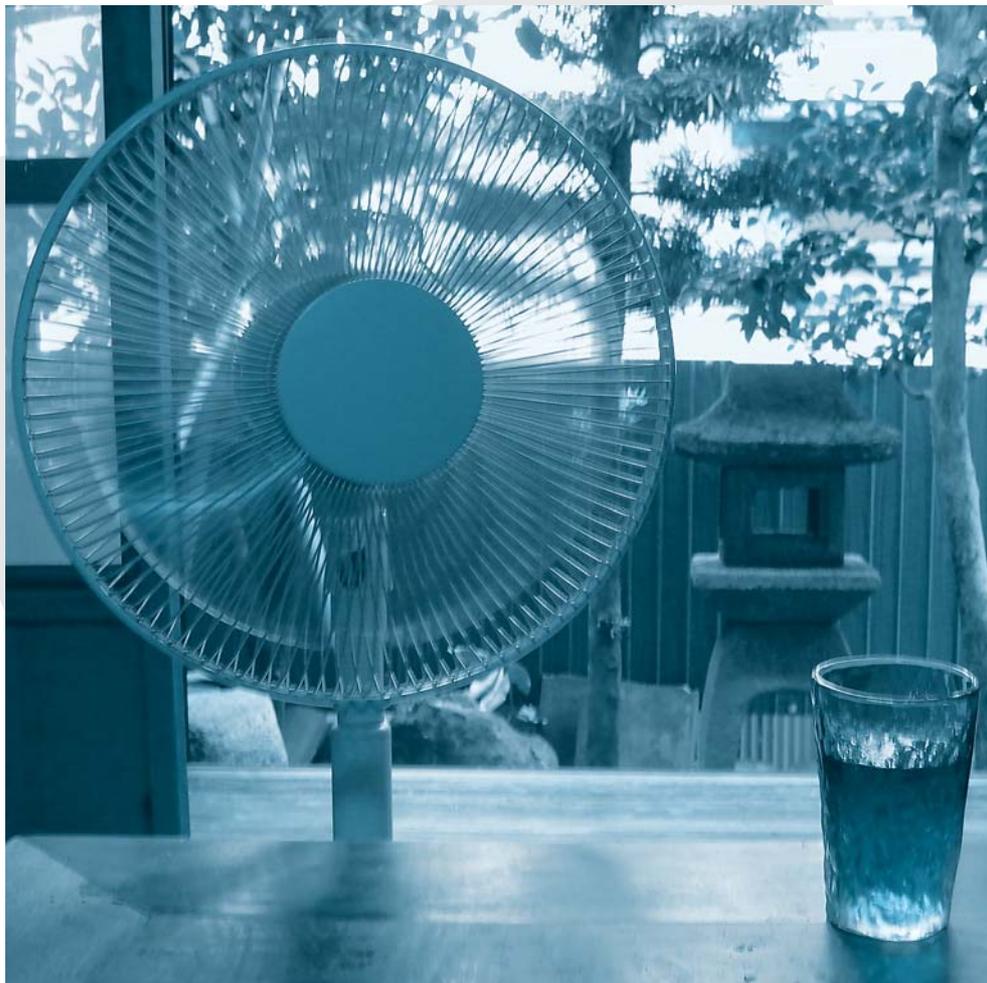
第12号

2002年8月15日発行



「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。
「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて
環境と共生できるまちの姿を描いていきます。

みやこ
京
のアジェンダ21フォーラム
ニューズレター



巻頭特集

京都議定書いよいよ発効へ 京都ではじまる京都がはじめる

地球温暖化防止に向け、京都のNGO・行政が進める取組

アジェンダ見聞録

持続可能な地域社会への実験場

コミュニティ・サポートセンター(CS)神戸の取組から

アジェンダNOW

醍醐地域 広がるエコな響き

「食の循環ワーキンググループ」発足

朱雀第三小学校、「KES学校版」認証登録 第1号

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

恩地 惇さん

未来に残したい...
京の知恵

扇風機が帰ってきた

夏は暑く冬は寒いので

当たり前をもう一度

少し我慢すること

少し諦めることを始めます。

ただ、出来たらこの部屋が

もう少し風通し

良かったらナァ...

左様、扇風機の威力発揮の

ためにはあの「京町家」のように、

まず家が外とつながっている

ことが大事なのです。

写真 山口洋典

* 詳しくは5ページをご覧ください

京都議定書 いよいよ発効へ 京都ではじまる京都がはじめる

今年6月、政府は京都議定書を批准しました。大半の先進国も既に批准を終え、97年の地球温暖化防止京都会議で誕生した議定書は、5年の歳月を経ていよいよ発効に向けて動き出しました。地球温暖化問題は待たなし。私たちの身の回りでも、生き物や天候に地球温暖化の兆候とも考えられる異常が多発しています。地球温暖化を防止するため、京都議定書誕生の地・ここ京都でも、さまざまな取組がはじまっています。

今回は、京都のNGOと行政がそれぞれどのような取組を進めようとしているのか、市民にどのような取組を求めているのか、それぞれの立場から寄稿していただきました。

京都議定書の批准

6月4日、日本政府が京都議定書を正式に批准しました。地球温暖化を防止するための世界的な唯一の枠組みである京都議定書の発効に向けて、一步前進したと言えます。今後は、京都議定書の削減目標の達成、2012年以降の削減目標設定やビジョンづくりが重要になってきます。ようやく歩き始めだした京都議定書を大きく育てることが京都に住む「地球市民」の重要な役割と言えるでしょう。

国内対策の抜本的見直しを

京都議定書を実効性のあるものにするためには、国内の温暖化対策を着実に進めていく必要があります。しかしながら、京都議定書が採択された後も有効な対策は実施されてきていません。国内における2000年度の温室効果ガスの排出量は1990年に比べて8%増加し、CO₂だけでみると10.5%も増加しています。この増加し続けている温室効果ガスを削減するには、ドイツ等で自然エネルギーを飛躍的に普及させた『自然エネルギー買い取り法』の制定や、環境負荷の程度や温室効果ガスの排出量に比例して支払う環

温暖化は進んでいる

集中豪雨、熱帯夜の増加など気候の変化をテレビや新聞では「地球温暖化」が原因だと報道しています。確かに京都地方気象台の記録によると100年間で年平均気温は2.5 上昇しています。都市化に伴ういわゆるヒートアイランド現象も一因ですが……。

インド洋や太平洋上の島嶼諸国では、海面上昇が原因で国土を失いつつあることから、すでに移住をはじめたところもあります。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）という国際機関も、様々な気候モデルやシナリオに基づき、今後100年間で1.4～5.8 上昇すると予測しています。温暖化対策に直ちに取り組んでも、100年後の平均気温の上昇を止めることは、ほぼ困難であるとの結果のようです。

京都議定書の約束履行に向けて

私たちは子孫のため、世界中の人々のためにも、地球温暖化による影響を少しでも食い止めねばなりません。4年半前の地球温暖化防止京都会議・COP3で採択された京都議定書に定められた目標だけでは、地球温暖化を止めることは

境税や炭素税の早期導入が必要です。

地域でも先進的取組を

地域でのCO₂の排出量も増加しています。国と同様、抜本的な対策や仕組みづくりが進んでいません。人々の温暖化問題への関心は高まっていますが、実際の行動になるとまだ興味を持ち、時間や場がある人に限られています。地域全体で、温暖化防止活動に取り組んでいる人が損をしない公平な仕組みが必要です。また、地域で整合性のあるビジョンや計画をつくり、対策を実践していく必要があります。

一方、COP3以降、温暖化防止に関する様々な取組が各地で始まっています。京都議定書の批准にあたって、これらの活動を一層広め、効果をあげていくための地域戦略と担い手が求められています。

気候ネットワークの取組

これまで、地球温暖化防止に取り組む全国のネットワーク組織として、国際的な交渉への参加、国内対策に関する活動、地域レベルでの活動やネットワーク化に取り組んできました。今後も、基本的にはこれらの活動を継続して市民

できませんが、第一歩の取組として、温室効果ガスの大量排出国である先進国がまず削減に取り組むという決意が、京都議定書採択の原動力であったと思います。

本年6月、わが国はこの京都議定書を批准しました。日本は世界に対して、温室効果ガス排出削減の意志表示をしたわけです。EU諸国も批准し、7月末現在、批准国は76か国となり、議定書発効の要件のひとつである55か国以上はクリアしました。しかし、批准した先進国の二酸化炭素排出量は、先進国全体の二酸化炭素排出量の約36%であり、排出量の比率55%以上という条件は未だ整っていません。このため発効はまだ足踏み状態です。

京都市の温室効果ガス排出量は増加

京都市は、COP3の開催直前（平成9年7月）に策定した「京都市地球温暖化対策地域推進計画」に、二酸化炭素排出量を「2010年（平成22年）までに1990年（平成2年）レベルの90%に抑制することを目指す」とする削減目標を掲げている。様々な取組を行ってきました。しかし、自動車の大型化と台数の増加、世帯数の増加と家電品の普及などにより、温室効果ガス排出量



議定書発効に向け 気候ネットワーク



の立場から温暖化防止に取り組んでいきますが、国内対策に関する活動に一層重点を置くことになります。具体的には次のような方針で活動しています。

(1) 調査・研究と情報発信、政策提言

地域での温暖化対策を進めることを目的として、社会の様々な制度や状況を把握し、他地域の先進事例と成功要因や課題などについて調査・研究を行っています。この研究結果をもとに情報提供や政策提言も行っています。またセミナーやシンポジウムを通じて、最新の情報や動向を共有し、議論も行っています。

(2) 仕組みとモデルづくり

調査・研究や議論の結果を受けて、対策の具体化に取り組んでいます。温暖化対策に熱心に取り組んでいる人だけが時間やお金を負担するのではなく、常識的な選択をすることが温暖化防止の活動につながる、逆に温暖化の原因を増加させるような活動には負担が増えるような仕組みづくりを目指しています。この仕組みが機能するために、都市部や山間地など地域の実情にそった対策を組み入れた温暖化対策のモデルとなる地域をつくっていくことにも取り組めます。

(3) 連携と広がり

実際に温室効果ガスを削減するためには、やはり広がりが大切です。地域全体に広めるために、企業や自治体、他のNGOと連携して活動を行います。既に、地域の組織や教育機関とも連携し、温暖化防止に関する入門セミナーやワークショップを行っています。これらは、単なる学習ではなく、実際の活動につながっていくプログラムを提供しており、今後さらに充実させたいと考えています。また京のアジェンダ21フォーラムのようなパートナーシップ組織へ参加し、環境NGOとしての専門的な知識・情報の提供、各セクターの橋渡し役などの役割を担っていく考えです。

京都議定書とともに

これらの活動も多くの人々の協力があってこそ実現できるものです。また社会的な痛みも伴う変革が必要であったり、民主的に人々の合意をつくりあげるために膨大な時間や手間がかかります。しかしながら、社会・経済制度を見直し、温暖化対策を地域で実践していくことで、地域が活性化し、公平で豊かで持続可能な地域社会を築くことにつながるはずで、京都議定書はこの可能性を育むものでしょう。

は基準年（1990年・1995年）に比べて2000年では1.2%増加しており、このままでは2010年までに18%増加すると見込まれています。

そこで、本年5月に京都市環境審議会（会長 山本剛夫 京都大学名誉教授）から、京都議定書で定められたメタンなどを加えたすべての温室効果ガスの総排出量を2010年（平成22年）までに1990年（平成2年）レベルの90%に抑制することをさらに目指すことと、二酸化炭素の排出量が増加している運輸部門・民生部門の対策及び推進方策を中心に、充実・強化すべき17項目の取組、特に現時点で大きな削減効果が期待できる8項目の重点取組（印）が提案されました（別表）。

削減目標達成に向けて

この取組による削減効果の試算結果では、2010年（平成22年）までに1990年（平成2年）レベルの約87%に抑制できる可能性はありますが、これらは市民、事業者の自主的な取組によるところも多いことから、対策を実効あるものとするために、特に経済的なインセンティブも含めて、施策面でのより一層の取組が必要であり、条例等制度面での早急な検討が望まれると締めくくられています。

今後、京都市では、この答申をもとに「京都市地

球温暖化対策地域推進計画」の改定作業を進めていく予定ですが、あわせて京のアジェンダ21フォーラムにおいても、いっそう議論を深め、事業や活動を推進し、温室効果ガス排出量10%削減の実現に力を尽くしていただきたいと思います。

【17項目の充実・強化取組】

運輸部門対策
低公害車の導入、低燃費車の購入 歩くまちの歩行空間の形成推進 自転車利用環境の整備 バス輸送サービス等の充実等公共交通機関の利用促進 交通需要管理施策（TDM施策）の導入と推進 軽量軌道公共交通機関（LRT）の検討
民生部門・家庭系対策
ライフスタイルの見直し
民生部門・業務系及び産業部門対策
環境に配慮した事業活動の推進 建築物の省エネルギー化の促進 屋上緑化等のヒートアイランド対策の推進
エネルギー転換部門及び廃棄物対策
木材や生ごみ等のバイオマスエネルギー等自然エネルギーの利用促進
推進方策
地球温暖化防止条例の検討 京都市の推進体制の強化充実、取組の広域的連携、市民・事業者との協働体制の充実 モデル事業、社会実験等の実践取組の促進 地球温暖化防止基金の創設、税制度の改正等措置・制度の検討 市民・事業者の取組支援 施策の進行管理





持続可能な地域社会への実験場

コミュニティ・サポートセンター（CS）神戸の取組から

NPO法人「環境市民」エコシティ研究会では、1年にわたってサステイナブル・コミュニティ（SC）研究プロジェクトを進めてきた。私たちはSCができる原動力を探すため、「結果」ではなく、SCづくりのキーパーソン像やそのプロセスをつぶさに見てきた。研究会では全6回の連続講座「持続可能な地域社会への提案」や全国の魅力的な9つの地区の事例調査を通して持続可能な地域社会へのプロセスについて調査、議論し、報告書を作成中である。今回はその成果の中から、CS神戸（神戸市東灘区）の「くるくるプロジェクト」について報告する。

CS神戸は、阪神大震災をきっかけに生まれた被災者支援ボランティア組織、「東灘・地域助け合いネットワーク」を母体とするNPO法人である。CS神戸は40を越える事業を抱え、地域のNPOを支援することを通して「まちに仕事をつくりだすこと」を目的として活動している。

持続可能なコミュニティのビジョン

CS神戸は1995年の阪神大震災で甚大な被害のあった神戸市東灘区の甲南町、魚崎北町・中町・南町で構成される甲南・魚崎地区をフィールドとして活動を続けている。人口は2万人強、大都市では標準的な小学校区である。

CS神戸は、SCを構成する8つの要素を「くるくるコミュニティ」というビジョンにまとめている（右図参照）。「くるくる」は循環を意味する。これは地域にある多くの財産（人、建物、芸術、自然、アイデンティティ等）をどんどん利用し、安心して安全で楽しいまちづくりを目指すものである。本来、コミュニティという限られた範囲内の循環には限界がある。行政が特定のコミュニティを支援することは現実的に困難であるが、ボランティアに支えられたNPOが地域のニーズを収集し、それに基づいてコミュニティビジネスを立ち上げ、地域に職や人の輪を広げていくという活動手法は、足腰の強い継続的な市民活動のモデルとなりうる

ものである。

ビジョン実現に向けた地道な取組

もちろん、これらの総合的なプロジェクトがCS神戸単独で可能なわけではない。地域ぐるみで取り組むために自治会や女性会の存在を尊重し、自治体とは対等の関係を保っている。また、中間支援組織として、他のNPOとはよい意味での競合関係を保って競い合っている。

それでは「くるくるコミュニティ」の実現のために、具体的にどのような活動を展開しているのだろうか。CS神戸の中村順子理事長は、「とりあえず、ひとつひとつできることからやっつけていこう」というスタンスで取り組んできたと言う。例えば、法人格を有するCS神戸が中間支援組織として市からデイサービス事業を受託し、さらに地域の法人格なき団体に孫委託するという仕組みの「オアシスプラン」については、地元はおろか神戸市内全域あるいは西宮・尼崎まで広がっている。また、新エネルギー財団（NEF）からの助成金（47%）、協賛企業の拠出による基金（40%）、地域住民からの寄付（13%）で9921千円を集めて2002年2月に神戸市東灘区に開設された「くるくる発電所」は、太陽光で発電した電気を地域ニーズや住民のアイデアに基づいて活用していくという、CS神戸の「くるくるプロジェクト」の核をなす事業である。現在のところつくった電気は、防犯街灯や生ごみ処理機、雨水循環装置の稼働に利用しているが、今後、市民トイレ、広告塔、車椅子への充電、電気自動車への充電、非常時の蓄電などに用途を広げていく計画であり、単に環境負荷の低減だけではなく福祉や豊かな暮らしという広い視点で「循環」を捉えている。この事業を進めるプロセスでも、市の総合企

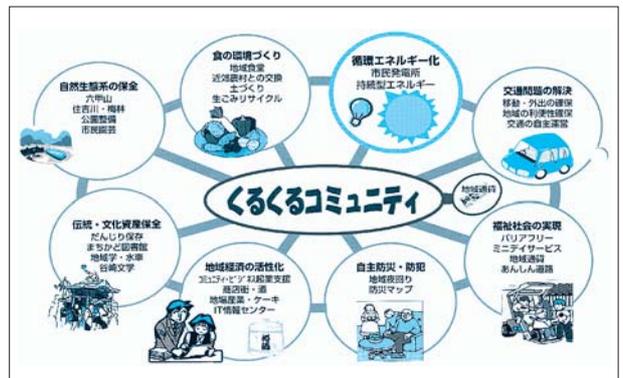
画・環境・交通部署の職員が深く関わっており、とても大きなプロジェクトになりつつある。このように、CS神戸はコミュニティ内の強固なネットワークを活かして「くるくる」の種を地域内に蒔いているのである。

小学校区という範囲のコミュニティは、生活者にとってまさに生活全般に関する課題を抱えている最小単位であるといえる。一方、コミュニティの問題を自分の問題として捉え、具体的にものを見、考え、共通の課題に共同して取り組むことができる最大単位でもある。ただ漫然と過不足のない生活を送っているだけではコミュニティの課題は見えてこない。そんな課題を掘り起こし、住民ニーズとして捉えることでどんな事業の可能性があるのかも見えてくるのだろう。また、今後もコミュニティの各主体を結びつけ、よい関係を保っていくことはCS神戸が目指す「くるくるコミュニティ」実現の大きなキープポイントとなるだろう。

SC研究の視点

SCづくりを考える上で重要なのは、「アウトプット=結果」よりもむしろ「インプット=SCづくりにどれだけ多様な人・組織やモノなどの地域資源が介在し、結びつき、ダイナミックに動いているか」である。SCを構成する8つの要素を結びつけ、総合的なコミュニティづくりを支える原動力として、CS神戸の手法が広がりを見せることを期待したい。

（環境市民 風岡 宗人）



（CS神戸作成パンフレット「くるくる発電所をつくりましょう！」より）

Q 暑い日が続いています。都心部の気温が周辺部よりも高くなるヒートアイランド現象は京都市中心部でも見られるようですね。ところで、最近、ヒートアイランド現象の軽減に壁面緑化や屋上緑化が有効だと聞きましたが、詳しく教えてください。(上京区・S)

A 壁面緑化や屋上緑化は、建築物の壁や屋上を緑で覆う緑化技術です。植物で覆われた壁面や屋上は、太陽光の直射を受けないので、温度が低く保たれます。最近のビルの壁面や屋上は断熱性能が高いので、必ずしも植物に頼る必要もありませんが、旧来の断熱性能の低い建築物では植物利用が有効です。また、植物はもう一つ大きな役割を果たしています。すなわち、根が吸収した水を葉の気孔から水蒸気として放出(蒸散)し、その時に熱エネルギーを奪うので、周囲の温度を下げるができます。壁面や屋上を植物で覆った部屋では、覆わない部屋よりも室温が10 前後低く、冷房経費も消費電力で3割削減できるという真夏の実験結果もあるほどです。

昨年4月に東京都がビル新築の際に屋上緑化を義務づけたことから、関心が高まり、全国的な普及に拍車をかけています。しかし、屋上緑化には、植物を植える基盤を支える屋上床面の積載荷重、灌水管理などの課題があり、低メン

テの緑化手法が求められているのも事実です。乾燥に強く、灌水などの管理が不要という特性に注目して、セダムという多肉植物の仲間を用いる動きも盛んです。しかし、セダム類は日中に気孔を閉じて蒸散をしないので、冷却効果が発揮できない恐れがあります。

屋上は、人の立ち入りを可能とした屋根のことで、そこに地上で確保できない緑のスペースを増やすことが可能です。しかし、緑化した屋上に乾燥状態で息絶え絶えの植物があるだけでは人の心は安らぎません。私は、単なる緑の持ち込みではなく、潤いのある緑の空間としての「屋上庭園」を実現することが必要だと思っています。そのため、拙速を避けて、じっくり方法論を検討すべきです。

(下村孝 京都府立大学人間環境学部教授)



先進事例 NEXT21(大阪ガス(株)作成パンフレット「大阪ガス実験集合住宅NEXT21」より)

其の拾貳、

扇風機が帰ってきた

「暑くなったら涼しい土地に移り、寒くなったら帰ってくる。渡り鳥や野牛やスー族、シャイアン族もそうだった。これこそ真に地球に則した21世紀の暮らし。ソウダ、今からすぐ始めよう」。ここで昼下がりの縁側の夢から眼が覚めた。

この頃、真夏の住宅街を歩いているとどこも妙に静かです。皆、窓を締めきりヒッソリと聞こえるのは交換機のかすかな音だけ、どこか「死の町」のような気配。

そのような中で最近の扇風機。とつくにすたれていい筈のこの道具が今、意外に元気がいい。色カタチも都会風でオシャレで首振り強弱自由自在、厚さ10数センチのケースに納まるのもあり大いに感動モノで、どうもまた愛好者が増えはじめていらしい。

聞いてみるとエアコン暮らしは結局、お肌が荒れる、子どもが風邪を引きやすい、寝起きの気分の重いことといったら。そして一番深刻なのは窓を締め切っていると世の中から隔離されているようでとても不安であること。やはり外の空気とつながってほしい、社会から取り残されたくない、アア、世界と一つでありたい。(そんなオバーな)

そこで思いきって窓を開ける、オオ暑い、で扇風機の登場、これが案外いけるジャン。近代合理至上の時代よサラバ、夏は暑く冬は寒いのが当たり前をもう一度、少し我慢すること、少し諦めることを始めます。ただ、出来たらこの部屋がもう少し風通し良かったらナァ……。左様、扇風機の威力発揮のためにはあの「京町家」のように、まず家が外とつながっていることが大事なのです。

恩地 惇

(会員、環境デザイナー)

(株)G K京都取締役社長)

写真 山口洋典



醍醐地域 広がるエコな響き

京都市伏見区醍醐地域では、京のアジェンダ21フォーラムと伏見区地域女性連合会と一緒に昨年度取り組んだ、環境にやさしい地域モデル事業がきっかけとなって、醍醐十校区自治町内会他、地域の幅広い住民が主体となった「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会」が結成され、フォーラムの支援のもとコミュニティバス実現をめざした活動の輪が広がっています。一方、NPO法人きょうとグリーンファンドがフォーラムと一緒に昨年度取り組んだパイロット事業で、市民共同のおひさま発電所を設置した「あけぼの保育園」では、その取組がきっかけとなって関係者の環境意識が高まり、さらにたくさんの人たちが参加する新しい環境の取組に発展しています。醍醐地域ではこのように多様な主体による環境アクションが起こす波が互いに重なって強め合いながら、エコロジカルなハーモニーを地域全体に響かせています。

“エコ交通をめざして”～醍醐にコミュニティバスが走る日は近い～

醍醐地域は地下鉄東西線開通後、路線バスが不便になってしまい、マイカー利用増による排気ガスの増大や交通渋滞が深刻です。また高台の団地などに住む住民、特に高齢者に優しい公共交通の整備が大きな課題となっています。そこで、地域住民たちの間でコミュニティバスを走らせるためのプランづくりが進められてきました。

7月20日に市民フォーラム「みんなで走らせよう醍醐のコミュニティバス」(醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会、京のアジェンダ21フォーラム共催)が開かれ、そのプランが発表されました。

市民フォーラムでは、京都大学の中川大助教授がコミュニティバスの役割と意義について話題提供。その後、各パネラーからコミュニティバスを地域で実現させ、支える意

気込みや、バスを乗り継いで回れる醍醐の観光コース設定など観光振興の提言、コミュニティバスを活かした商業振興、そして地域の声を取り入れたコミュニティバス運行の仕組みづくりなどについて熱心に話し合われました。地域みんなの思いをのせたバスが走り出す日はそう遠くないでしょう。



想定される路線

“地域の祭りのエコ化”～「あけぼの保育園」から地域へ～

おひさま発電所2号を完成させた「あけぼの保育園」で、「あけぼの夏まつり」が開かれました。大学生主体の環境NPO「エコトーン」が、リサイクル可能な再生紙のトレイを開発した(株)秀英と保育園をつないで環境に配慮した祭りを実現させました。

今回の「あけぼの夏まつり」で出たご

みは、紙トレイ、缶、割り箸、生ごみ、プラスチック類、ダンボールの7種類に分類され、そのうち紙トレイ、缶、割り箸、ダンボールが再資源化されました。焼却処分されたのは27kg、資源として回収したものは64.21kg。焼却処分する廃棄物は容積で例年の数分の1に減少、環境対策の効果が顕著に出ました(「エコトーン」報告)。

祭りに来た人も主催者側のスタッフも、ごみ減量に取り組みながら、祭りを存分に楽しみました。今回の取組は、この地域のエコ祭りのモデルとなっていくことでしょう。

お客さんのゴミ		事業系	
・缶	20,1	・プラスチック	8,52
・トレイ	20,48	・生ゴミ	11,79
・割り箸	3,35	・ダンボール	20,18
・燃やすゴミ	17,49	・燃やすゴミ	0,99

単位:kg



ごみ箱の周辺には手作りの看板があり、人がいてわかりやすく分別について説明

キーパーソンインタビュー 吉村睦子さん(醍醐西地域女性会会長)に聞く

現在、地域での環境学習の必要性を感じていて、そのきっかけを探しています。女性会としては、大人と子どもと一緒にできる環境学習をしていきたいと市民スクール21学級を開催して、9月には環境という視点で大人も子どもも一緒に自分たちの住んでいるまちを歩いてみて、エコマップを作る予定です。地図に気づいたことを落としていくことによって、住んでいる人それぞれが、まちのことを考えられるようになるのだと思います。

毎年地域の夏祭りを開くのですが、そのとき大量のご

みが出るので、「肩身の狭い思い」で処分しています。そこで、お祭りのごみを少なくするというをみんなで一緒に考えなければならないと思っています。

このトレイは各学区の自治会や女性会の行う夏祭りでもぜひ広めたいです。でも分別する場所に「口やかましい人」(笑)(編集部注 分別の仕方を案内する人)を配置する必要があるでしょうね。そうしないと、いい加減に入れる人が出てくるのではないのでしょうか。

「食の循環ワーキンググループ」発足

私たちが毎日いただく食べ物は、肉であれ、魚であれ、野菜・果物すべて、私たち人間以外の生き物、そのいのちをいただいているのです。だから、食べ物はあまり粗末にしたいと思いません。できるだけ、食材の持ち味を生かして、美味しく、感謝しながら食べたい。ところが、そうはなかなかいかなくて、食べ物の残飯・残滓などの生ごみは京都市のごみ処分量80万t（年間）のうちのなんと約20万t



7月にはWGメンバーで環境市民のエコファームを見学、堆肥利用の可能性を探った

以上を占めていると言われます。外食やレストランなどの利用が多くなればなるほど増えてきます。生ごみは焼却するにもたくさんのエネルギーが必要になり、またダイオキシン発生の要因ともなっています。今年から、こうした食料を扱う企業では、生ごみの処理、再利用が法律で義務付けられました。残るは家庭からの生ごみ。これを焼却してしまわないで、堆肥にし、農地に返すことができないか。つい最近まで日本人はそんな農業体験を持っていましたから、考えることはみんな一緒です。しこしこ、都会の真中で自分で堆肥をつくっている人がたくさんいます。しかし、できた堆肥の持って行き場がありません。そこで、どうしよう？ と集まったのが「食の循環ワーキンググループ（WG）」のメンバーです。研究者・企業や、実際農業をしている方々と一緒に環境にやさしい、食の循環システムをつくっていきましょう。先進例はいくつかありますが、大都会では無理だと言われます。そうでしょうか？ 京都や、日本で一括にすることは無理でも、小学校区など小さなコミュニティではどうでしょう？ そんなコアがいくつか集まってネットワークする。そんな京都モデルをめざして、あなたも「食の循環WG」に参加しませんか？

食の循環WGコーディネーター

あざみ祥子



朱雀第三小学校、「KES 学校版」 認証登録 第1号

昨年4月に、まず製造業を主体にスタートした「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード」を「学校」に導入するため、京都市や京都市教育委員会等の協力を得て、昨年秋から小学校9校・中学校2校において試行されてきました。これらの試行経過から、修正・補強を重ねようやく「KES学校版」の「構築の手引き」「環境マネジメントマニュアル」等もでき上がり、4月から審査登録を実施しています。まず朱雀第三小学校が7月22日に審査を受け、7月31日の判定委員会で合格し、「KES学校版・認証登録第1号」が誕生しました。続いて数校の審査が予定されています。既に独自の「環境にやさしい取組」を進めている学校がほとんどですが、具体的に環境影響評価を行い、環境マネジメントマニュアルを作成して定期的にその実績を確認するいわゆる「システムづくり」にはあまり慣れていない様子でした。しかし、KES審査員から数回のコンサルティングを受け、校長先生以下教職員・生徒の皆さんが一体となって大変熱心に取り組み、その活動が軌道に乗ってきています。

学校における「環境にやさしい取組」を通じて、子どもたちが「環境への理解」を深める一つのツールとなることを願っています。さらに学校間の

連帯、地域や家庭へのつながりを広めることも視野に入れながら、「のびのびとした、特色のある活動」を目指して「KES学校版」の取組校を増やしていきたいと考えています。

（現在、高校や保育園でも「KES」導入の検討が進められています。）

企業活動WGコーディネーター

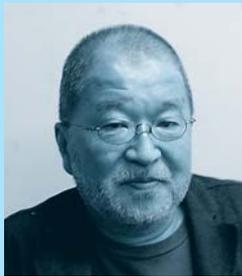
津村昭夫



「KES学校版」認証式 8月6日 朱雀第三小学校にて

ひと
まち
きたる

恩地 惇 さん



待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。

カタチ以前の構想、企画を初め、
すべてをデザインする、総合デザ
イン会社、GK京都の取締役社長。
御池通のデザインやペロタクシー
の広告意匠など、さまざまなデザ
インにかかわってこられました。
本誌の「未来に残したい京の知恵」
でもおなじみです。

京の知恵、いつも楽しく読ませて頂いています。

京都の暮らしの文化を、堅苦しくなく、少し滑稽にね。
難しく言うことは簡単だけど、そうなると野暮になって
しまう。書くネタは探しておいて、だんだんくずしてい
く。思っていることがどうやったら上手く伝わるか、工
夫するのは嫌いじゃないです。

読む人の気持ちになるということですか？

そうですね。だれか読む人を思い描いて、それから書
いていくのもいい。僕なりの俳句のようなものかな。言
葉の持つ雰囲気と四季の季節感を重ねていく、気楽にね。
写真も2回位撮っているけど、冬の号のコタツは、自分
の家で普通に撮ったものだし。

そうなんですか？ 素敵なお部屋ですね。

町家ではありませんが、御縁があってお預かりしてい
る京数寄屋です。その前にマンションに住んでいた時に、
きっちり日本の家に暮らしてみたいなと思っていたら、
お話がきたんです。僕は、住む家で人格が決まると思っ
ている。ゆったりと暮らせる家というのは、特に子供の
成長には必要だと思う。それと、親が自分が好きなこと
に一所懸命打ち込んで、その姿を見せて、あとは見守る。

今、見守っている最中ですか？

いや、2人とも15歳の時に、自分の進む道を見つけて、
親元を離れていきましたよ。今女房と2人、身軽な訳で
すよ。だから秋からは町家に移り住もうと思っています。
それも、中京区あたりで。具体的なあてがあるわけじゃ
ないですよ。ただ、ビジョンをもつことが大切です。

そこから、御縁も生まれる、と？

京都に来たこと自体、御縁だと思う。東京で生まれ育
って、暮らしがバブルになってきて、贅沢で、移り変わ
りが激しい、こんなインチキなところは嫌だ、と捨てて、
やや偶然この街に来た。でも、なんていいとこに来たん

だろうと必死で勉強したんです。

歴史を振り返ると京都に他所から来た人が作った部分
が案外多いんですよ。勘違いしてはいけないのは、京都
は生まれ育った人だけのものではない。日本の京都、世
界の京都。それだけ価値のあるとこです。

伝統とは前衛的なのです。伝統には生まれてきた歴史
があり、それが暮らしの知恵につながります。それは、
合理的で無駄がなくて、無理がない。そして、そこに美
的なものを生み出すのが、京都ならではの。エコロジーは
後でのっかってきた。近世300年間、いまだに生きてい
る作品ですね。街も暮らしも。一段上のスーパーエコで
すよ。美しいからこそ、続いてきた、京都においては、
エコロジーは美につながっているんです。さらに「天に
のっとり、地にそくし」信仰がベースにあるから、もっ
たないない=しまつの暮らし=神様への感謝、なんですよ。
暮らしも神様から御縁でお預かりしているものです。

あと、ハレとケ。これはいい思想です。最近は、ケが
贅沢になって、ハレがかすんできた。物でなくて経験に
お金を使う。僕は結婚10年の記念にダイヤを贈るので
なく、祇園で最高のお座敷に妻を招待しました。

さて、これからは？

僕はよく京都の人から「ずっこい」と言われる。いい
思いだけしてる、と。だから、恩返しで京都の交通をな
んとかしたい。具体的には四条通、河原町通の歩道を3
メートルから8メートルにする。車が遠慮した歩行者の
街にすると他の通りも輝いてくる。あと数年の間に大幅
に変化しますよ。そしたら、世界中から見にくる。京都
やからこそ出来たんや、と。

今、中京にマンション増えているけど、交通が変わる
と都心のベクトルも変わり、やっぱり地べたに住もうと
いうことになり、街も変わっていきますよ。

今日はありがとうございました。

(聞き手 千葉有紀子)

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

銀行振込口座：UFJ銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググル
ープへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2002年夏(第12号)

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局環境企画部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：河村吉宏・佐藤桂子・滋野浩毅・竹村光世・千葉有紀子・

能村聡

デザイン・レイアウト：藤本芳一・山口洋典

このニュースレターは古紙100%の再生紙に大豆油インクを使用しています。